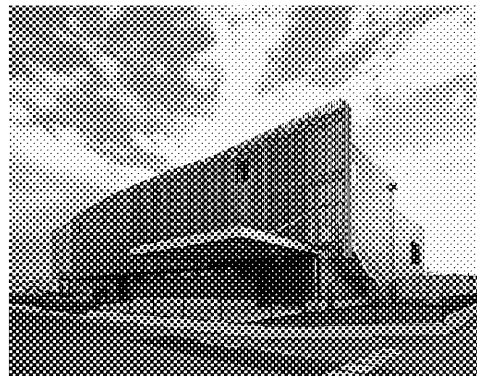


大塚実業（栃木県足利市、大塚雅之社長）はベトナムに進出し、水処理フィルターの製造と販売を手がける。2023年春に現地法人を設立し、24年に現地工場を開設する。総投資額は2億円。同国や東南アジア諸国連合（ASEAN）各国の経済成長により、排水処理などの需要が増えると判断した。同社は20年に新本社工場が稼働。生産能力の増強と販売拡大で、26年3月期に22年3月期比約2.3倍の売上高12億円を目指す。

## 24年に工場開設

20年11月に完成した本社工場  
（大塚実業提供）



来春設立のベトナム（仮称）法人は「OTKベトナム」の全額出資子会社で、

資本金は1000万円。進出にあたり日本貿易振興機構（JETRO）の支援を受けている。ハノイ市とホーチミン市に営業拠点を設置。当初は日本から

延べ床面積約2000平方メートルを計画。日本などからフィルター用ろ過布を調達し、現地加工する。工場開設時の現地法人の社員数は14人。26年3月期に売上高1億5000万円を見込む。将来は水処理のコンサルティングなども行う。

大塚実業は1973年設立。7億5000万円を投じた新本社工場が20年11月に完成。浜松市にあつたる過布

## 来春 現法設立 水処理フィルター製販

# 大塚実業、ベトナム進出

ら水処理用フィルターを調達し、同国やASEAN域内の日系・地元企業に販売する。

24年にフィルター工場を設ける。ダナン市の工業団地が候補地で、敷地面積約1000平方メートル、2階建てで延べ床面積約2000平方メートルを計画。日本などからフィルター用ろ過布を調達し、現地加工する。工場開設時の現地法人の社員数は14人。26年3月期に売上高1億5000万円を見込む。将来は水処理のコンサルティングなども行う。

大塚実業は1973年設立。7億5000万円を投じた新本社工場が20年11月に完成。浜松市にあつたる過布

の生産拠点を新本社工場に集約し、生産能力を従来比1万平方メートル増の9万平方メートルに増強した。大塚社長はベトナム進出の理由として、「世界を見渡した時、環境や製造など創業以来50年間培った当社の技術やノウハウが役立つ場面があると思った。より多くのお客さまの困りごとを解決するため進出を決めた」と話した。